



第 13 回定期総会（平成 30 年 4 月 11 日、水）が手稲区民センターで開催されました

## 平成 30 年度 第 13 回定期総会・懇親

### 茂内義雄会長のあいさつ(要旨)

こんばんは！！一言ご挨拶申し上げます。

いよいよ平成 30 年度がスタートする訳ですが、昨年度は手稲町合併 50 周年という大きな節目に私たち郷土史研究会がいろいろな面で事業を展開させて頂きました。新年度も手稲区内外の多くの方々に手稲の研究会は「よかったね」といってもらえるような事業を進めて行けたらいいなと思っています。



このあと、いろいろとお話があると思います。大きな時の流れの中で一つは、来年の今頃は平成という時代が終わって、新しい時代が来るのでしょうか。もう一つは松浦武四郎が北海道と命名して 150 年になることから、にぎやかな声が聞こえてきます。この大きな時の流れの中で、間違いなく手稲の歴史も入っているということです。又私たちの手稲郷土史研究会も楽しい研究会になればいいなと思っています。簡単ですが挨拶といたします。

(文責:佐々木)



議事に入る前に茂内義雄会長から「特別功労賞」を相川重吉会員、渡辺隆会員のお二人が表彰されました。

今回は「手稲ものしり博士証」に該当する会員はおりませんでした。

その後、渡部副会長を議長に選出

して、永井事務局長から平成 29 年度事業報告、第 4 号・第 5 号・第 6 号議案が提案され、熱心な討議がありました。それ故に時間不足となり一部次回定例会であらためて討議することで、総会を終了し、懇親会にうつりました。

(第 13 回定期総会議案書 30 年 4 月 11 日) 参照



### 手稲郷土史研究会

#### ながい みちよし 永井 道允 新会長の新任あいさつ

先刻、総会において、会長の大役を仰せつかりました永井でございます。

ここに伊藤手稲区市民部々長様、吉田手稲区地域振興課々長様、笹淵手稲区連合町内会連絡協議会々長様、臨席をたまわり、懇親の宴を開催できることを大変嬉しく存じます。

私たちの手稲郷土史研究会は、手稲で育つ子どもたちが「ふるさと手稲を知り」「ふるさと手稲を愛し」「ふるさと手稲に誇りをもつ」そんな子どもに育ててもらいたいと願っています。その学びの場として「手稲郷土資料館」を手稲区に開設したいとの夢を持ち続けています。

昨年度は札幌市・手稲区・手稲区連合町内会協議会等のご協力をいただきながら「手稲記念館収蔵



品展示会」を手稲駅自由通路「あいくる」で開催いたしました。多くの人に手稲の歴史的遺産を知ってもらう機会となりました。

4千年もの昔、縄文人が生活を営んでいた痕跡が残っています。どんな家に住み・どんな道具を使いどんなものを食べていたのでしょうか……、想像するだけでも、子どもたちの興味を引くものでありましょう。

手稲区では各種の団体が、子どもたちのためあるいは地域住民のために「まちづくり活動」「ふるさと手稲づくり活動」を展開しています。「ていねっていいね」のキャッチコピー、私は大好きです。私はそれに「本当に」という言葉を加えて「ていねって『本当に』いいね」と言い合える街になったらいいなと思っています。これらの団体と手を携えて、いつの日か「手稲郷土資料館」が実現することを夢んでいます。

とりわけ、地域のリーダのみなさんの集合体「手稲区連合町内会連絡協議会」は、最良のパートナーとしてともに歩めたらいいなと願っています。

**次回定例会**  
**平成 30 年 6 月 13 日 (水)**  
**18 時 15 分**  
**「街かどで見つけた**  
**歴史のかげら」**  
**菅原 純子 会員**  
**区民センター会議室**

## 手稲郷土史研究会・懇親会



伊藤部長

笹渕会長

吉田課長

総会終了後、会場を一新した恒例の懇親会は、濱埜静子副会長の司会で、来賓のお三方をお招きして楽しみにしていた懇親会が開催されました。

来賓の手稲区市民部長伊藤博昭様、手稲区町内会連合会連絡協議会々長笹渕吉弘様からご挨拶を頂き、手稲区地域振興課々長吉田裕亮様の乾杯の音頭で懇親会が行われました。



限られた時間でしたが、久しぶりの酒席での会員相互の交流が出来たのではないのでしょうか。平成 30 年度に向けて盛り上がる懇親会は、鈴木清士相談役の終わりの乾杯、渡部副会長の閉会のことばで終宴となりました。